令和6年度（2024年度）北海道防災総合訓練（第2回）

○ **目　的**

北海道地域防災計画に基づき、北海道、防災関係機関、関係市町村の共同により、大規模な地震・津波災害を想定した訓練を実動で行うことにより、災害時における応急対策活動能力の向上を図り、北海道の災害対応力を強化することを目的とする。

○ **訓練日程・主要会場**

令和6年12月21日(土)～22日（日）　根室市、別海町、中標津町

○ **主催等**

●主　催 北海道防災会議　　●共　催 根室振興局管内5市町

○ **訓練内容**

1　訓練想定　　厳冬期において、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に伴い、太平洋沿岸地域に巨大津波が発生

2　訓練実施項目

■　情報伝達訓練
- ○防災情報システム等複数の伝達手段を用いた市町村への情報伝達・共有
- ○各種手段（防災無線、エリアメール等）を活用した住民への情報伝達
- ○臨時災害放送局による避難所情報の発信

■　住民避難訓練
- ○高齢者や車いす使用者など避難行動要支援者への避難支援
- ○避難者にGPSを携帯させ避難経路や移動距離等のデータを測定

■　避難所運営訓練（宿泊含む）
- ○災害時のペットとの同行避難及び避難所でのペット受入
- ○防災講話
  「根室の冬期津波災害を想定した逃げるまでの課題と逃げてからの対策」
  講師　日本赤十字北海道看護大学　教授　根本昌宏
- ○段ボールベッド等を使用した宿泊体験の実施
- ○湯たんぽ、足湯等の低体温症対策及び二酸化炭素濃度の測定

■　救出救助訓練
- ○関係機関が所有するヘリによる津波避難ビル及び高台避難場所からの急患の救出救助

■　医療救護訓練
- ○DMAT、救急隊による傷病者の応急処置及び搬送
- ○活動拠点本部（町立中標津病院）における患者の搬送先調整及び現地指揮本部（計根別飛行場）との情報共有

■　情報収集訓練
- ○自衛隊及び道警が保有するドローンによる孤立地域状況の確認及び映像伝送
- ○北海道開発局が保有するドローンによる道路被災状況の確認及び映像伝送
- ○漁業取締船ほくと搭載ドローンによる漁港等被災状況の確認及び映像伝送

■　物資輸送訓練
- ○内陸部にある中標津空港を活用した被災地への支援物資の輸送
- ○自衛隊ヘリ・車両及び民間トラックを活用した被災地への支援物資の輸送
- ○物資輸送調達支援システムの活用

○ **参加機関等**　　計35団体（うち市町村　5団体）　　約　700名

【北海道（1）】

総務部危機対策局、環境生活部自然環境局、保健福祉部地域医療推進局、保健福祉部福祉局、水産林務部水産局、根室振興局

【訓練参加市町村（5）】

根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町

【北海道防災会議構成機関（13）】

北海道総合通信局、北海道開発局、気象庁（札幌管区気象台）、第一管区海上保安本部、陸上自衛隊、北海道警察、東日本電信電話株式会社北海道事業部、KDDI株式会社北海道総支社、株式会社NTTドコモ北海道支社、ソフトバンク株式会社、公益社団法人北海道看護協会、一般社団法人北海道薬剤師会、公益社団法人北海道トラック協会

【災害時協定締結企業等・その他協力機関（16）】

一般社団法人日本コミュニティ放送協会北海道地区協議会、一般社団法人日本産業・医療ガス協会北海道地域本部、根室北部消防事務組合、野付漁業協同組合、別海漁業協同組合、北海道キッチンカー協会、北海道公立大学法人札幌医科大学、北海道災害リハビリテーション推進協議会、北海道立総合研究機構、北海道立動物愛護センター、アキレス株式会社北海道営業所、新成物産株式会社、帝人株式会社、日本セイフティー株式会社、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、矢崎化工株式会社北海道支店

○ **参加者の声（主要会場におけるアンケート集計結果）**

【避難所運営訓練（日中）参加者へのアンケート】

■　全般
- ・全ての参加者が本訓練により防災意識が向上したと述べている。

■　訓練に参加して最も印象に残ったこと

1：防災講話　2：非常食の加熱法　3：災害用トイレの使用法　4：キッチンカーによる炊き出し

■　今後訓練に取り入れて欲しい事項

1：避難所運営ゲーム（Doはぐ）等のシミュレーション訓練　2：消火訓練やAED使用法などの体験型訓練
3：防災物品・車両等の展示

■　その他自由意見（抜粋）
- ・北海道の特性を踏まえて日頃からいざというときに備えておくことの重要性を再認識した。
- ・冬期避難の厳しさと温かい食事の重要性を再認識した。
- ・多くの機関と訓練することで、関係機関相互の連携ができた。
- ・ペットとの同行避難は、喫緊の課題であり継続的に実施すべき。
- ・住民の参加が少なかった、住民参加型の訓練（配食支援、ゲーム形式等）を増やすべき。□

【避難所運営訓練（宿泊訓練）参加者へのアンケート】

■　全般
- ・全ての参加者が本訓練が役に立ったと述べている。

■　宿泊者の睡眠状況

1：あまり眠れなかった（85．7%）　2：普通に眠れた（約14．3%）

■　宿泊時に気になった事項

1：寒さ　2：音　3：トイレ

■　宿泊訓練で役に立った事項

1：段ボールベッドの組み立て方法　2：足湯体験　3：湯たんぽ

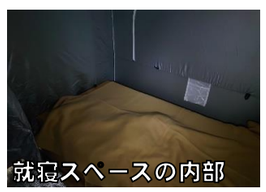
■　その他自由意見（抜粋）
- ・厳冬期での宿泊の過酷を体感でき、備えについて考えることができた。
- ・足湯や湯たんぽは暖かく、リラックス効果があることが分かった。
- ・二酸化炭素濃度に注意すること、換気の重要性について理解できた。

令和6年度（2024年度）北海道防災総合訓練（第2回）の主な様子（主要会場）

⑦ 物資輸送訓練：中標津空港

⑤ 医療救護訓練：計根別飛行場・別海駐屯地　等

④ 救出救助訓練：尾岱沼・本別海・走古丹

①②⑤ 情報伝達訓練・情報収集訓練・住民避難訓練：別海

③ 避難所運営訓練（宿泊含む）：花咲港小学校